作成日:2021 年 11 月 5 日
改訂日:2023 年 4 月 1 日

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称　Blasolube® 592
一般名　潤滑油

供給者の会社名称　株式会社エスティジェイ
住所　〒213-0002 神奈川県川崎市高津区二子一丁目 26 番 26 号
電話番号　044-850-1401
供給者のファクシミリ番号　044-850-1402
緊急連絡電話番号　044-850-1401
推奨用途　潤滑剤、潤滑グリース
使用上の制限　推奨用途以外に使用しないこと

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類
物理化学的危険性
引火性液体　区分に該当しない
健康に対する有害性
急性毒性(経口)　区分に該当しない
環境に対する有害性
区分に該当しない

GHS ラベル要素
絵表示　該当しない
注意喚起語　該当しない
危険有害性情報　該当しない
注意書き　該当しない

GHS 分類に関係しない又は GHS で扱わない他の危険有害性
情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要
該当しない

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
混合物

組成、成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	化審法官報整理番号	濃度又は濃度範囲(wt%)
ベンゼンスルホン酸アルキル誘導体のカルシウム塩	68584-23-6	-	<1
ミネラルオイル	-	-	99≦

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

症状に対応した治療法を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

二酸化炭素、粉末消火薬剤、水噴霧を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、高圧水流の使用を避ける。

火災時の特有の危険有害性

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
激しく加熱すると燃焼する。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

容器を水スプレーで冷却する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏えい区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。
作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項
環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
危険でなければ漏れを止める。
少量の場合、ウエス、雑巾等でよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから回収する。

二次災害の防止策
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 眼に入れないこと。
接触回避	酸性物質、酸化剤と一緒に保管しない。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

保管

技術的対策	保管場所には必要な照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質	酸性物質、酸化剤
安全な保管条件	0℃～40℃の熱や直射日光を避けた場所で元の容器で保管すること。
安全な容器包装材料	元の容器を使用すること(貯蔵期間は最低3年間)

8. ばく露防止及び保護装置

管理濃度
設定されていない

許容濃度(ばく露限界値、生物学的指標)

日本産業衛生学会(2021)	3 mg/m^3(鉱油ミスト)
ACGIH TLV-TWA (2021)	5 mg/m^3(鉱物抽(金属用切削抽を除く)高純度及び高精製)(インハラブル粒子)

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具	蒸気が発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、不浸透性で耐性のある（ニトリルゴム、最小厚さ 0.3mm）保護手袋を着用する。
眼、顔面の保護具	眼に入る恐れがある場合、側面保護付きのフレーム付き眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

特別な注意事項

情報なし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態、色	黄色～緑色ペースト
臭い	鉱物油臭
融点/凝固点	流動点:145℃（ISO 2176 / ASTM D566）
沸点又は初留点及び沸騰範囲	>300℃（DIN 51751 / ASTM D86）
可燃性	情報なし
爆発下限及び爆発上限界/可燃限界	0.6-6.5 Vol %
引火点	> 210℃（ISO 2592 / ASTM D92） （処理された鉱物油、エステル油、または合成油の値）
自然発火点	>350℃（DIN 51794 / ASTM E659）
分解温度	>350℃
pH	情報なし
動粘性率	265-295 mm/10 @ 25°C.（ISO 2137 / ASTM D217） NLGI class: 2
溶解度	水:不溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	0.9 g/cm^3（20°C）（DIN 51757 / ASTM D1217）
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
その他のデータ	VOC（CH）: 0.00 %

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の取扱い条件下では反応しない。
化学的安定性	通常の取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	酸性物質、酸化剤と反応する。
避けるべき条件	情報なし

混触危険物質	酸性物質、酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、硫黄酸化物、金属酸化物

11. 有害性情報

製品の有害性情報

急性毒性（経口）	ラット LD_{50} > 2,000 - < 5,000 mg/kg
急性毒性（吸入）	ラット LC_{50} > 5,100 mg/m³ 4h

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類（国連輸送名）	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
MAR POL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制がある場合の規制情報

消防法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号:該当しない

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物（鉱油）（1.0 重量%以上含有する製剤その他の物） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（鉱油）（0.1 重量%以上を含有する製剤その他のもの）

16. その他の情報

参考文献

日本産業衛生学会（2021） 許容濃度等の勧告
ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2019) TLVs and BEIs.

【注意】
この安全シートは、JIS Z 7252:2019、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成されているが、必ずしも十分ではない可能性がある。このため本製品の取り扱いには十分に注意が必要である。この安全シートの記載内容については、法令の改正及び新しい知見等に基づき改訂が必要となる場合がある。この製品安全シートの内容は通常の取扱いを対象としたものであるため、特別な取扱いをする場合には、用途や条件に適した安全対策等を実施することが必要である。